

平成29年度

研 究 発 表 会 要 項

研 究 主 題

豊かな心を育み、生きる力を培う

教育課程の編成について

10月11日（水）

大阪市立中学校教育研究会

教 育 課 題 部

会場：大阪市教育センター

教育課題部 研究発表会 次 第

(司会：昭和中 坂根 眞一郎)

1. 研究主題について (14:00～14:15)平野北中 宮川 敏昭

2. 研究発表

(1) 「教育課題部アンケート結果について」 (14:15～14:45) 阪南中 渡辺 洋一

(2) 意見交換 (14:45～15 : 00)

休 憩

3. 講演

(1) 講師紹介 (15:10～15 : 15) 宮原中 長田 周也

(2) 「授業改革で学校は変わる」 (15 : 15～16 : 15)

～ まろやかな風が吹く学校～

講師 枚方市立第四中学校 校長 岩谷 誠 氏

(3) 質疑応答 (16 : 15～16:45)

4. あいさつ (16:45～17 : 00) 矢田西中 児玉 光弘

平成29年度 教育課題部アンケート結果について

教育課題部では、「豊かな心を育み、生きる力を培う教育課程の編成について」という研究主題をもとに、毎年全市中学校にアンケート調査を行い、その結果を集約し、全市研究会で発表し、各学校の取り組みの参考となるように努めている。

本年7月にも、「主体的・対話的で深い学び」「授業におけるICTの活用」「朝の活動」についてアンケート調査を行った。結果は以下のとおりである。

回答数 87校 + 夜間学級1校 + 分校1校 = 計89校
(130校 + 4校 + 1校 = 135校中)

回収率 65.9%

〔1〕「主体的・対話的で深い学び」〔協同学習、アクティブ・ラーニングなど〕について

「主体的・対話的で深い学び」の導入については、下の表1-1のとおりとなった。およそ4分の1の学校で、全校的な取り組みとなっている。

1 全校的に導入している。	■■■	22校	25%
2 一部の学年で、学年をあげて導入している。	I	1校	1%
3 一部の教科で、教科をあげて導入している。	■■■	15校	17%
4 一部の教員で、教科横断的に導入している。	■	8校	9%
5 一部の教員が、個人的に導入している。	■■■■	29校	33%
6 導入していない。	■■	12校	13%
無回答	I	2校	2%

表1-1 主体的・対話的で深い学び〔導入状況〕89校中

導入校（1～5と回答した75校）に特徴的な教科を3つまであげてもらった結果、国語・社会・数学・理科・英語のいわゆる5教科をあげた学校が多かった（表1-2）。また、方法と成果を尋ねたところ、ペアやグループでの活動を取り入れ、学習が苦手な生徒も含めてさまざまな成果が上がっていることがわかった。（表1-3）

国語	■■■	27校	36%
社会	■■■■	34校	45%
数学	■■■	25校	33%
理科	■■■	25校	33%
音楽	I	2校	3%
美術	■	6校	8%
保健体育	■	10校	13%
技術・家庭	■	7校	9%
英語	■■■■	29校	39%

表1-2 主体的・対話的で深い学び
〔特徴的な教科（3つまで）〕75校中

	方 法	成 果
国 語	<p>◇一人学習⇒ペアワーク⇒グループワークでの意見交換・学び合いの手法で、国語科の学習を行っている。</p> <p>◇ビブリオバトルや句会などを定期的に行い、生徒一人ひとりが自分の意見を発信できる授業をしている。</p> <p>◇小説内には書かれていないことを、類推する形式の授業を実施。登場人物の行動・考え方を述べさせる。</p> <p>◇グループ学習を古文の単元などでおこない、暗唱したり、百人一首を読みあうなど。</p>	<p>◇意見を交流することで、考えが深まっている。協働学習を数多く実践することで話し合うことに抵抗がなくなり、良好な人間関係を築くのに役立っている。</p> <p>◇自らの意見を、根拠を明確にして文章を表すことができるようになった。また、接続詞を的確に使用し、論理的な文章を書くことができるようになってきている。</p>
社 会	<p>◇班活動やペア学習を行い、予習してきた内容やそれぞれに考えたことを交流している。</p> <p>◇班別学習で、日常想定される問題の解決方法を話し合い、自分の意見を述べさせる。</p> <p>◇単元の導入やまとめの時間に、協同学習を取り入れ、班ごとにプレゼンテーションさせる。</p> <p>◇導入時に前日のニュースを取り上げ、社会的問題について話し合わせている。</p>	<p>◇情報収集能力やレポート作成能力が養われた。</p> <p>◇自分の考えを持てる生徒が増え、人に伝えるための表現力がついてきたように思う。</p> <p>◇学習が苦手な生徒が、学習活動にスムーズに参加することができ、低学力の克服につながっている。</p> <p>◇学習意欲が高まり、授業に取り組む姿勢がよくなる。クラスや学年、学校全体の雰囲気がよくなる。</p>
数 学	<p>◇3-histogramsを用いての資料の分析や、Geogebraを用いての関数・図形の考察を班で行う。</p> <p>◇3～5人のグループで演習問題にあたり、自分で考える、班員に聞く、そして知識を高め合っている。</p> <p>◇計算の過程や問題解決について数学的表現を用いて説明させている。</p> <p>◇学級生徒のアンケートを元に、集団の通学時間についての資料を班ごとに整理し発表した。</p>	<p>◇課題達成が困難な生徒に対し助言でき、人に教えることで、自身の考えを整理することにつながる。</p> <p>◇資料・関数・図形を視覚的にとらえやすくなり、班で協力して課題解決を行えた。また、さまざまな意見に触れ、深い学びがうまれた。</p> <p>◇結果だけを求めるのではなく、その過程を考える力、興味を持たせることができた。</p>
理 科	<p>◇1つの実験結果は、なぜそうなるのかをグループで考え、そのための実験等を行い、課題解決へ導く。</p> <p>◇実験を行う際、計画・実行・ふり返り・まとめ作業をグループとして取り組ませている。</p> <p>◇教科書の内容は家で予習させ、授業では教え合いながら問題演習に取り組む。</p> <p>◇班学習を行い、実験内容、結果をタブレットに記録し、他の班と比較する。</p>	<p>◇「なぜ」という部分での興味関心、また、自分の考えを人に伝えることで、より深い学びに。</p> <p>◇小さな気付き・疑問点など他の生徒と共有し話し合う活動を通して理解が深まったといえる。</p> <p>◇教室内を立ち歩くことを認めることで、積極的に教えたり、尋ねたりすることができた。</p> <p>◇学習が苦手な生徒が、学習活動にスムーズに参加することができ、低学力の克服につながっている。</p>
音 楽	<p>◇対話しながら授業を進める。</p> <p>◇グループ学習による発表</p>	<p>◇生徒の実態に合わせ個に応じた学習ができる。</p> <p>◇積極的な発表や意見交換が増えた</p>
美 術	<p>◇グループワークで各自のデザインをプレゼンし、いいところ、工夫すればいいところなどの意見をもらうことにより修正、より完成度の高いものへ仕上げる。</p> <p>◇作品鑑賞で、自分の印象をグループ内で対話し、ストーリーにまとめ、発表する。</p>	<p>◇仲間が描いた作品の良さを整理して知ることができ、2度目に描いたときには多くの生徒が少し上達していた。</p> <p>◇作品の印象を端的に言え、鑑賞が深まるとともに、自己作品の主題や、表現がより深まってきた。</p>
保 体	<p>◇ペア・班で互いにタブレットで動きを撮影し、チェックしあい、改善点を話し合わせる</p> <p>◇グループを作り相手チームにどうすれば勝つことができるかを話し合う。</p>	<p>◇指導者が口で言うよりも、自分の動きを自分で把握することができ改善につなげている。</p> <p>◇勝ち負けのみでなく、チーム全体として協力ができた。</p>
技 家	<p>◇電子マネーやクレジットカードの仕組みについて。タブレットなどのICT機器を用いた調理実習。班活動を中心とした取組み。</p> <p>◇実技を伴う教科なので協力して対話は行いが、更に班別授業の時間を増やした。</p>	<p>◇社会へ出るために必要なスキルや知識について、生徒がそれぞれ責任感をもって学ぶことができた。</p> <p>◇意見を出し合っているいろいろな意見を取り入れている。実習でお互い教え合ったりしている。</p>
英 語	<p>◇毎回の授業で5～8分間、コミュニケーション能力を高めるスピーキングレッスンに取り組んでいる</p> <p>◇ペアワークを取り入れたり、グループワークを行い、スピーキング、ライティングの力をつけている。</p> <p>◇google翻訳を用いて自分のことばを英語に訳す。英語でビデオレターを作成。班活動を中心とした取組み。</p> <p>◇授業の始めに、前回の復習として、英語の質問を6人にする。(全員が教室内を動き回る)</p>	<p>◇「話す」学習活動が活性化し、英語が好きという生徒が増加した。互いに教え合う活動も深まる。</p> <p>◇自分の考えを表現するために、英単語などの知識をどう生かしていくかを皆で話し合って学ぶことができた。</p> <p>◇英語を使うことに抵抗が少ない。わからない事を友人に聞けるので積極的である。</p> <p>◇スピーチする側だけではなくリスナーとしての学習もでき、何もしない者がいなくなった。</p>

表1-3 主体的・対話的で深い学び【方法と成果（抜粋）】

「主体的・対話的で深い学び」の校内研修の実施状況については、下の表 1-4 のとおりとなった。実施予定がない学校が半数近くにのぼった。

1 実施している。	■	22校	25%
2 まだ実施していないが、予定している。	■	24校	27%
3 実施予定がない。	■	42校	47%
無回答。	!	1校	1%

表 1-4 主体的・対話的で深い学び〔校内研修の実施状況〕 89 校中

校内研修を実施している学校（1、2 と回答した 46 校）には、さらに方法を具体的に答えてもらった（表 1-5）。外部講師の活用もいくつかの学校で行われていることがわかった。

<ul style="list-style-type: none"> ◇中高で講師を招いて研修を行ったり、公開授業を通して研修を深めたりしている。 ◇大学の講師に依頼し、研修会を実施した。 ◇相互授業参観、研究授業行っている。 ◇全教職員が参加するワークショップ型の研修会を実施している。 ◇昨年度、教育支援員**先生による研修を行った。 ◇広島大学マルチレベルアプローチ指導の研修会を 8 月に実施予定 ◇公開授業で「話し合う時間」取り入れている ◇教育センターの研究指定で取り組んでいる。 ◇協働学習における対話的であることの重要性 ◇学期に 1 回の校内研修で、各学年を対象とした授業研究を実施している。 ◇外部講師も招いて年に数回校内授業研究会および授業検討会を実施している。 ◇アクティブ・ラーニングの授業見学 ◇ICT活用研修の中で、主体的・対話的で深い学びへのアプローチを取り上げる。 ◇「がんばる先生支援事業」で取り組んだり、自主研修会で実施したりしている。 ◇言語活動などのアクティブ・ラーニングを意識した研究授業を各学年が実施している。

表 1-5 主体的・対話的で深い学び〔校内研修の方法（抜粋）〕

「主体的・対話的で深い学び」についての課題をあげてもらった（表 1-6）。指導方法の充実を図ろうとするものの、各校で様々な課題があることがわかった。

<ul style="list-style-type: none"> ◇良いとわかっていても、実践に踏み出せない教員が多い。 ◇理解が不十分。率先してチャレンジし、若手・ベテランを引っ張る年代の教員が少ないうえに多忙。 ◇「班学習」＝「アクティブ・ラーニング」ではないことを認識しなければならない。 ◇授業規律の徹底。班活動を行う時の班の決め方。生徒の意見のとりまとめと発表方法。 ◇授業のイメージが想像しにくい。基礎的な知識の量をどのように増やすか。 ◇次期学習指導要領の解説などをもとに各教科の特性を生かしたあり方の研究が必要 ◇教師の主体性を損なっていると思われる。 ◇教科により方法や対応が異なるので、一斉の研修では効果が薄い。 ◇教員間の技量のギャップや教科の特性の差がある。 ◇机の高さがバラバラで、グループにした時にきれいにならない。些細なことだが、こういう面にもしっかりと取り組みたい。 ◇ベテラン教員に授業スタイルの変化を望むのは、必要だが難しい。 ◇具体的な実践内容を一から考えて取り組む必要があり、大変な時間と労力がかかる。教材研究は非常に大切だと思いますが、教員は他の仕事（生活指導、校務分掌等）にも時間がとられ、忙しい日々です。 ◇カリキュラムを進めるうえで時間的な制約が課題。（特にチャレンジテスト実施科目は、範囲が定められるので難しい。）

表 1-6 主体的・対話的で深い学び〔課題（抜粋）〕

〔２〕 授業におけるＩＣＴの活用について

ＩＣＴ活用事業で導入された授業用パソコンの活用については、右の表２－１のとおりとなった。約７割の学校で授業用パソコンが活用されていることがわかった。

１ よく活用している。	■■■	23校	26%
２ ある程度活用している。	■■■■	42校	47%
３ あまり活用していない。	■■	21校	24%
４ まったく活用していない。	■	3校	3%
無回答		0校	0%

表２－１ ＩＣＴの活用〔授業用パソコンの活用状況〕８９校中

授業用パソコンを活用している学校（１、２と答えた６５校）に、特徴的な教科を３つまであげてもらった結果、社会・数学・理科・英語をあげた学校が多かった（表２－２）。なお、モデル校のため３つに絞れなかった学校もあった（表には計上せず）。また、方法と成果を尋ねたところ、教材や生徒の作品・意見を提示することなどで、生徒の関心や理解が深まったなどの回答が多かった。（表２－３）

国語	■	6校	9%
社会	■■■	30校	46%
数学	■■■	30校	46%
理科	■■■	29校	45%
音楽	■	1校	2%
美術	■	4校	6%
保健体育	■	7校	11%
技術・家庭	■	9校	14%
英語	■■■	39校	60%

表２－２ ＩＣＴの活用〔授業用パソコンの活用〕
特徴的な教科（３つまで）６５校中

	方 法	成 果
国語	◇資料・教材の提示や生徒作品（文章）の紹介 ◇調べ学習	◇アニメーション機能で関心を引いた ◇板書時間の短縮
社会	◇ほぼ全授業で黒板への板書の代わりにパワーポイントを利用 ◇電子黒板で、NHKの特集映像を効果的に鑑賞させている。	◇写真や図版が鮮明で見やすいため学習内容が理解しやすい。 ◇時間の効率化を図り、班活動の時間を生み出している
数学	◇デジタル教科書を利用して、文章問題や図形を見ながら説明ができる。 ◇エクセルを用いて数値を入力して確率を求めたり、タイマーで取組み時間を表示したりしている。	◇視覚的に教材を扱え、数学的に考えるイメージを持たせることができる。 ◇自分の教科書と見比べることなく、前を見るとわかるので集中力が増した。
理科	◇デジタル教科書の動画素材などを活用。 ◇実験の説明などを授業用パソコンと電子黒板を使って表示するなど。	◇写真・動画等で視覚的に確認でき、理解が深まる。 ◇集中力が持続しづらい生徒が積極的に授業に参加できるようになった。
音楽	◇教材や生徒の作品を投影する。MuseScoreの活用。	◇板書の時間が減り、実技の活動量が増やせる。
美術	◇静止画を見せて、話し合っている ◇資料の提示や作業方法の提示	◇集中して説明を聞くことが出来ている。 ◇視覚的内容の具体的な違いの理解。
保健体育	◇教示用の動画を提示する。 ◇実技のチェックに活用 ◇タブレットと連動して、授業をしている。	◇進捗状況の確認、視覚的理解を促す効果があった。 ◇生徒の興味・関心を高めた。 ◇客観的な自己評価をすることができた
技術	◇電子黒板に各班の調べた内容等を表示する。 ◇調理実習の手順を動画で示した。	◇生徒の考えを比較することができ、話し合いがより深まった。
英語	◇他校と回線を通じ、自己紹介をしあう。 ◇仲間が英語で話している様子を班で録画して、各自で発音などをチェックし、良いものを発表する。	◇生徒が発言する時間が増え、イメージ化でき、生徒の興味を引くことができる。 ◇ReadingやSpeakingに対して苦手意識を少なくすることができる。

表２－３ ＩＣＴの活用〔授業用パソコン〕方法と成果（抜粋）

また、表2-1で3、4と回答した学校（24校）には、授業用パソコンが活用されない理由を答えてもらった（表2-4）。機器の使いにくさなどが使用のネックとなっていることがわかった。

◇接続が悪く、運用しづらい。
◇積極的に活用する必要がない。
◇準備に時間がかかる
◇持ち運びなどの面でタブレットより活用機会が少なくなってしまう。
◇不慣れで準備に手間がかかる。自分のPCやスマートフォンで教材を作成している。
◇使用できるコンテンツが少ない
◇使うほどの必要性を感じていない教員が多いように思われるため。
◇教室のLAN環境が整備されていない。
◇教室が狭く、電子黒板を常置することが難しい。
◇USBが使えない
◇PLC環境下であり、まだ教室でのICT活用が進んでいない。画像提示だけなら従来の機器を使う。

表2-4 ICTの活用〔授業用パソコン〕活用されない理由（抜粋）

ICT活用事業で導入されたタブレット端末の活用については、右の表2-5のとおりとなった。半数近くの学校でタブレット端末が活用されていることがわかった。

1 よく活用している。	■	8校	9%
2 ある程度活用している。	■	33校	37%
3 あまり活用していない。	■	44校	49%
4 まったく活用していない。	■	4校	4%
無回答		0校	0%

表2-5 ICTの活用〔タブレット端末の活用状況〕89校中

タブレット端末を活用している学校（1、2と答えた41校）に、特徴的な教科を3つまであげてもらい（表2-6）、方法と成果を尋ねた（表2-7）。教科としては、理科・保健体育をあげた学校が多かった。また、モデル校のため3つに絞れなかった学校もあった（表には計上せず）。また、特別支援学級で活用し、個々の生徒に応じた活動ができたとする学校もあった。

タブレット端末の活用は、授業用パソコンほどすすんでいないにもかかわらず、活用方法が多様であることがわかった。

国語	■	8校	20%
社会	■	10校	24%
数学	■	11校	27%
理科	■	23校	56%
音楽	■	1校	2%
美術	■	4校	10%
保健体育	■	17校	41%
技術・家庭	■	8校	20%
英語	■	7校	17%

表2-6 ICTの活用〔授業用パソコンの活用〕
特徴的な教科（3つまで）41校中

	方 法	成 果
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ◇教材と関連させ、食レポを情報番組風に発表し合う。 ◇ネットにつなぎ、意味調べを行った。 ◇ペア学習によって、デジタル教材を学習に使用した。 ◇読んだ本に関する紹介のプレゼンを動画で撮影し、発表させ、評価する。 ◇ネットから画像を取り出し、イメージで俳句を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇的確に情報を収集でき、内容にふくらみを持たすことができる。 ◇本の辞書で調べるよりもスピードが早く数も調べられた。 ◇目先が変わって学習することで生徒の興味関心が高まる。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ◇課題探究学習において情報検索の際に利用させる。 ◇導入で動画などをみせる ◇問題の選択肢をタブレットで答え、集計結果を表示する。 ◇グループワーク、発表ノートの活用 ◇タブレットを活用した班での調べ学習 ◇班別授業時の班の意見などをタブレットに書き込み、電子黒板へ表示するなどをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇多くの情報を得るとともに、相互に比較させることができる。 ◇調べる・まとめる・発表することが効率的に行うことができる ◇各班のプレゼン等に即座に掲示できた。 ◇復習しやすい。全員参加できる。 ◇世界遺産など現地の様子が映像で確認できるところや調べもの学習に役立っている
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ◇領域（一筆書き）の授業等でタブレットの活用を行う。 ◇問題などがインストールされており、生徒がその問題を解いている。 ◇グループ学習で、解の解き方などをビデオ作成 ◇3-histogramsを用いて、資料を分析したり、Geogebraを用いて、関数・図形を考察したりした。 ◇エクセルを用いて数値を入力したり、タイマーで取り組み時間を表示したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇反復学習、習熟度別学習をすることで、個々に応じた学習を行え、繰り返し、行うことで、知識を定着させる。 ◇不得意な生徒も授業に参加できている。 ◇資料を分析する時間を多くとれた。 ◇授業にメリハリがついて、生徒の集中力が持続するようになった。 ◇複雑な立体のイメージを掴むことができた。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ◇タブレットの持ち帰り・ドリル学習。 ◇実験で各班のデータを収集したり、動画を撮影したりしている。 ◇実験の個々の説明や簡単なアプリケーションで実験の模擬体験をした。 ◇教材となる写真をタブレットを通して観察させる。 ◇タブレットを使用し、各自の解答、考えを電子黒板に反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇個々の意見を全体で確認したり、投票機能を使用したりすることで役立っている ◇他の班との比較等がしやすく、考察するのに役立っている。 ◇写真を拡大することにより、より詳しく観察させることができた。 ◇実験結果からわかることを、映像を振り返りながら考察することができた。
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ◇作曲用ソフトを使い、各生徒に作曲を体験させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇音楽に対する積極的な姿勢を育てることができた。
美 術	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒がタブレットで撮影した写真をプロジェクターに接続し発表した。 ◇製作の見本をさがす。色彩の工夫をする。 ◇美術の作品を調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇I C T機器を活用する機会が得られた。 ◇生徒の興味関心が高まった。
保 体	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の行った動作をカメラで撮り、後で、自分のできていない部分を確認できる。 ◇グループで前転やラジオ体操の様子を取り、自分のフォームを確認する。 ◇集団行動においてタブレットで撮影し、グループごとに観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒が客観的に自分の実技を確認できる。評価の素材として活用できる。 ◇言葉で伝えきれない部分を映像で見ることでカバーができた。 ◇自分たちの活動状況を映像で確認し、改善に結びつけることに役立てた
技 家	<ul style="list-style-type: none"> ◇ミズナの栽培記録として、画像を撮影する。 ◇物差しや工具の使い方 ◇ロボットレゴの操作 	<ul style="list-style-type: none"> ◇積極的に自分の意見を発表するようになった。 ◇タブレットの使い方もマスターし、生徒が自主的に活用している。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ◇単語クイズを行った ◇ドリルパークで活用したり、英語のプレゼンテーション学習で使用 ◇仲間が英語で話している様子を班で録画して、各自で発音などをチェックしている。 ◇班学習などで活用し、リスニングなどの活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇楽しく一生懸命答えることができた。 ◇個々のペースに合わせて学習を進めることが容易にできる ◇生徒が英語を話すことに少しずつ抵抗がなくなってきた。 ◇全体で行うことが個人やペア、班でできるので時間が効率化する。

表2-7 I C Tの活用〔タブレット端末〕方法と成果（抜粋）

表2-5で3、4と回答した学校（48校）には、タブレット端末が活用されない理由を答えてもらった（表2-8）。授業用パソコンと同様、機器の使いにくさが使用のネックとなっていることがわかった。

- ◇日々の生徒対応に追われ、準備する余裕がない。
- ◇全く使っていないわけではないが、限られた授業時間の中で、なかなか立ち上がらなかったり、動作が遅いなどが起こったりすると困ることと、タブレットがなければ困るという場面がないから。
- ◇接続に課題あり。台数が少なく、一斉には活用できない。
- ◇各教科で、どのように使用すれば効果的なのかわからないため。
- ◇パスワードが複雑、接続までの準備が大変、自由度の少なさ
- ◇ソフトが自由に入れられないから
- ◇使いやすいアプリが見当たらない。なくても授業に影響がない。
- ◇昨年度に試しに活用したが、使ってみて、使いにくいとのこと

表2-8 ICTの活用〔タブレット端末〕活用されない理由（抜粋）

「授業におけるICTの活用」についての課題をあげてもらった（表2-9）。ハード面・ソフト面ともに課題が多くあげられた。

- ◇用意に時間がかかりすぎる。動作不良（ログインできない）がある。
- ◇特別教室にLANが届いていない。グラウンドの真ん中では、ログインに時間がかかりすぎる。
- ◇体育でのタブレットの使用時、グラウンドの様な明るい場所では、見えづらい。
- ◇先進的に活用している学校の研究授業への積極的な参加を促していくこと。
- ◇ソフトごとに操作の覚え直し、使い慣れたソフトやアプリが使えない。
- ◇授業案を各校共有していく必要がある。
- ◇教室にタブレットを運ぶのがたいへん。
- ◇教員用のタブレットがなく、自由に使えない。教員が日常的に使用できるタブレットがあれば、教員の研修も進む。
- ◇機器の不具合があると、授業構成が根本から崩れてしまう
- ◇各学校の状況に応じたアドバイスをすぐにもらえるサポーターの常駐（週に1回でもよい）
- ◇押しつけが多すぎて、現場が疲弊している。
- ◇タブレットの不具合が多すぎる。これだけ故障しても現場の改善案は全く聞き入れられず、生徒も教員も不安とストレスを抱えたままやりくりしている。支援員なしに実践は不可能。
- ◇ICTの方が通常授業よりも効果が高いという単元を見本で示すべき
- ◇毎週のアップデートは非常に負担を感じます。（現在は1ヶ月に1回になった）

表2-9 授業におけるICTの活用〔課題（抜粋）〕

〔3〕「朝の活動」について

朝の活動（集会・ドリル学習・読書など）にどれほど時間をとっているかを確かめるために、各校の始業時刻と1時限目の開始時刻を調べた（表3-1）。1時限目の開始が8時45分と50分にほぼ半々であることがわかった。

	始業			1時間目の始まり		
8時30分	■	87校	98%		0校	0%
8時35分		0校	0%	┃	1校	1%
8時40分		0校	0%	■	4校	4%
8時45分		0校	0%	■	37校	42%
8時50分		0校	0%	■	41校	46%
その他	┃	2校	2%	■	6校	7%

その他はともに
分校1校、夜間1校含む

表3-1 朝の活動〔始業時刻・1時間目の開始時刻〕89校中

朝の活動における集会、ドリル学習、読書の週あたりの回数を尋ねた（表3-2）。なお、ドリル学習と読書を時期によってかえていると答えた学校があった。また、その他の取り組みとして「新聞学習」「読み聞かせ」「1週間の振り返り」などをあげている学校もあった。

	全校集会			学年集会			ドリル学習			読書		
週5回	┃	1校	1%		0校	0%	┃	2校	2%	■	3校	3%
週4回		0校	0%	┃	1校	1%	┃	2校	2%	■	3校	3%
週3回		0校	0%	■	18校	20%	■	30校	34%	■	42校	47%
週2回		0校	0%		0校	0%	■	11校	12%	┃	2校	2%
週1回	■	85校	96%	■	65校	73%	┃	4校	4%	■	10校	11%
週0回	┃	4校	4%	■	5校	6%	■	40校	45%	■	29校	33%

表3-2 朝の活動〔各取り組みの週回数〕89校中

「朝の活動」についての課題をあげてもらった（表3-3）。職員朝礼と並行して行う難しさなどがあげられた。

- ◇朝読書における保護者への啓発
- ◇朝学習か朝読書か両方でいくかまたその他など、朝の活動の良い方法を考える。
- ◇朝の読書活動を推進していきたい
- ◇朝の職員打ち合わせの時間をどのように確保すればよいのか苦慮している。
- ◇朝に読書やその他、何か取り組みをしなければいけないというのは息苦しい。
- ◇遅刻生徒が多く、活動に個人差が生じること
- ◇帯活動としての5日間がとれない。
- ◇親子給食が始まる2学期より、朝の活動を含め、校時の見直しを迫られる可能性がある。
- ◇職員朝礼などと並行して行うため、一部の教員は教室の巡回等が必要である。
- ◇時間が短く、慌ただしい。もう少しゆったりとした時間の中での取り組みにしたい。
- ◇効果があるかどうか定かではない。
- ◇教師が監視する体制から、生徒の主体性を尊重する活動に変えていく。
- ◇教員の勤務時間との関係（5分前に活動を徹底しているため）
- ◇教育課程に位置付けられないため、生徒のモチベーションが上がらない。
- ◇給食の時間（親子方式）があるので、8時45分以降には1時間目の開始は難しい。

表3-3 朝の活動〔課題（抜粋）〕

講演

「授業改革で学校は変わる」

～ まろやかな風が吹く学校～

講師

枚方市立第四中学校

校長

岩谷

誠

三